

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察特殊報第3号について

本県では未確認のアワダチソウグンバイ (*Corythucha marmorata* (Uhler)) の発生が確認され、今後キクへの被害が懸念されるため、特殊報第3号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ (www.jpjn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第3号

平成21年8月7日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 アワダチソウグンバイ (*Corythucha marmorata* (Uhler))

2 作物名 キク科作物

3 発生確認及び発生状況等

平成20年10月に霧島市隼人町野口(天降川河川敷)のセイタカアワダチソウで、平成21年6月にいちき串木野市市木、指宿市山川・開聞及び南さつま市のセイタカアワダチソウでグンバイ類の発生が認められた。また、平成21年7月には鹿児島市の花壇のキクと南さつま市のひまわりでも発生が認められた。

本虫は平成21年7月24日に門司植物防疫所鹿児島支所により、県内では未確認のアワダチソウグンバイであると同定された。

本種は北米原産の侵入害虫で、国内では平成12年に兵庫県で初確認され、平成17年頃から急速に分布を拡大し、九州では佐賀県(平成19年)、熊本県(平成19年)、長崎県(平成20年)で発生が確認されている。

4 形態及び生態等

(1) 形態

成虫は体長は約3mmで、背面からの外観は軍配に似た形状をしている。前翅は半透明で、褐色の斑紋と周縁部に列生する小棘が特徴である(写真1)。幼虫は紡錘形で、褐色～黒褐色を呈し、つやがあり、葉裏などに密生している。

(2) 生態

成虫はセイタカアワダチソウで越冬し、5月～10月頃まで加害する。成虫発生のピークは7～8月である。

(3) 被害の特徴

宿主植物の葉裏面に多く寄生し(写真2)、吸汁加害する。被害葉は、ハダニによる吸汁被害と酷似したかすり状の白斑を生じる(写真3)。さらに進行すると被害葉は白化または黄化し、やがて枯死に至る。また、葉裏面には排泄物によるすす状の汚れ(写真4)を生じる。

(4) 寄主植物

これまでに国内では、下記の植物に寄生・加害が確認されている。

キク科作物：キク、ヒマワリ、ノコンギク、シオン、ヒャクニチソウ、ユリオブスデージー、
キクイモ、食用ギク

キク科雑草：セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオブタクサ、オオアレチノギク、
オオオナモミ、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、ヨメナ

ヒルガオ科：サツマイモ

ナス科：ナス

5 防除対策

(1) ほ場周辺のセイタカアワダチソウ等のキク科雑草は、発生源となるので除草を徹底する。

(2) キクではコテツフロアブルが登録されているので、発生初期に防除する。



【写真1】成虫（体長 約3mm）



【写真2】キク葉裏面の成虫および幼虫



【写真3】キク葉表面の吸汁による白斑
※写真2～4は熊本県病害虫防除所提供



【写真4】キク葉裏面の排泄物によるすす状の汚れ